

1. 教育の責任

国際看護学部で基礎医学領域を、その中でも以下の科目を担当しています。

(一年生)

解剖生理学：身体の構造・生理を理解することは、すべての看護学の土台になります。十分な基礎のもとに看護実践があります。

病態生理学：身体の機能・生理の理解のもとに、なぜ身体に不調が起こるのかをその原因を考え、実際の患者さんの症状にどのように現れるかを理解することが授業の目的です。

微生物学・医動物学：感染症は風邪などの軽いものから、生命に危険が及ぶ重篤なものまであります。人や物の交流の広がりによって地球上を席巻するパンデミックに発展することもあることはご承知のことだと思います。本科目では、微生物や医動物の種類と特徴を理解し、同時に常在微生物の健康へのかかわりを理解することを目標にしています。

(二年生)

病態学Ⅵ：女性生殖器の疾患や病態を理解する科目です。女性特有の臓器の解剖と機能を正しく理解することは、妊娠・分娩や、妊娠関連疾患、不妊症などの理解の基本になります。

疾病と治療：腎・泌尿器系、内分泌・代謝系の疾患を、解剖生理学、病態生理学の知識に基づいて理解し、具体的なアセスメントやケアについても理解することが目的です。

病態学Ⅱ：栄養代謝（消化器系）の生理・病理を学びます。私たちは、食物を吸収し、食物中の栄養素を吸収可能な形に分解し、活動のエネルギーや身体の構成に必要な物質を得ています。本科目ではその病態生理を理解することを目標にしています。

(四年生)

看護研究Ⅱ：これまでの学習や実習で興味や疑問を持ったことを、自らの力で検討調査し論文にまとめます。この過程を通してこれからの看護師として必要不可欠な能力を養います。

2. 教育の理念

実際の患者さんの症状や疾病は多岐にわたります。すべての看護実践で基礎となる大切なことは、身体の構造・機能を体系的に理解し、機能的に人間を観察することであると思っています。そのために必要な知識は看護師にとって必須のものです。できるだけわかりやすく、知識だけではなく理解を重視した教育を目標にしています。

3. 教育の方法

講義中心の教育となります。その特徴を以下に示します。

- 予習および復習を前提として講義を構成する。
- 各講義の初めに前回の講義での疑問点を挙げてもらい解説を行うことで知識の定着に努める。
- 講義は教科書及び要点をまとめたレジメにそって重要部分の図を提示しながら解説する。
- 講義終了時点で次回の講義の予習範囲を伝える。
- 教科書の授業内容に該当する内容を事前に精読しておく。
- 授業後に、学んだ内容を教科書とノートを使って復習する。
- 毎回の授業後に復習レポートを課し理解度を確認および定着させる。

看護研究Ⅱは各々の主体的な学びを重視した教育となります。

4. 教育の成果

学生による「授業アンケート」では、授業に対する教員の熱意、授業の効果に関する各設問や、授業への評価に関する各設問において高評価をいただきました。不十分な点も多々あったと思いますが、おおむねこの方向で授業・研究を進めていけると考えております。

5. 改善への努力と今後の目標

* 目標に対する自分の課題：講義という形態上、どうしても一方的な知識の伝達になってしまいがちであった。復習レポートの内容や質問からのフィードバックを重視してさらなる内容の理解の定着に努めていきたい。期末テストでは理解度の到達が十分でない領域もみられるため、双方向の講義形式の導入も含めさらなる改善が必要と考えています。

【添付資料】

* 学生による「授業アンケート」